

各位

令和5年7月 豪雨による冠水後対策（施設園芸・葉菜類）について

令和5年7月

1. <茎葉類について>

- ①冠水により栽培継続が困難と判断した場合は、圃場が乾いてから速やかに被害株を圃場外へ持ち出して廃棄します。
- ②トラクターですき込む場合は、石灰類などを散布し、腐熟を早めます。（悪臭対策効果）
- ③降雨後には、施設の換気を十分に行ってなるべく早めに土壌を乾かします。

2. 病害防除対策（立枯れ・軟腐・エキ）

- ①栽培可能な圃場でも、土壌水分の過剰から来る根張り衰退や施設内の高温から軟腐病や疫病の発生が予想されるため登録剤での防除を行きましょう。
- ②冠水濁流等により立枯病など予想される圃場では、播種前に元肥に亜リン酸有機 8 号を 100 坪に 2 袋 (30 kg) 施肥します。（亜リン酸による静菌効果）

3. 圃場の土壌改善対策

- ①冠水により土壌が固く締まっている場合は、酸素供給材等で土壌の透水性と通気性を良くし根への酸素供給を確保します。 EB-a エコの 500 倍灌水処理
- ②冠水時間が長い圃場では、腐植の低下する場合がありますので、腐植酸を 100 坪に 2 袋 やカニボカシ 2 袋を播種前に施肥します。（CEC には、モンネン 1 袋）
- ③栽培継続可能な圃場で生育停滞する場合には、ウルル 7 号やクドグリーン 500～700 倍での葉面散布をしましょう。（薬剤混用可）

<アスパラガスについて>

- ①冠水により土壌が固く締まっている場合には、フショクフル 5～10 kgで浸透性、通気性を良くし根の活性を促します。

(1)極端な凝固土壌の場合には、EB_a エコ⇒10～20 ℓ 又は 200 倍の灌水処理

(2)根域の充実（根張）に、アミクエ 5～10 kgの灌水処理

- ②晴天になると茎葉の乾燥後に斑点性や疫病の防除を行います。（登録剤を参照に）

今回の豪雨被害に対して、心からお見舞い申し上げますとともに一日でも早い復興復旧を関係者一同心よりお祈り申し上げます。

アグリ技研（株）